

※質問の全文を記載しています。  
※「問」については、議員が提出した通告書どおりに掲載しており、編集は行っていません。



答弁中の中嶋町長

ボランティア推進と把握の一本化は

ボランティア養成講座を実施

**問** 須恵町では、多くの方がボランティアとして活動され、町づくりに貢献されています。ボランティアの把握は、各ボランティア組織と管轄の課などで行われていますが、一人の人が複数のボランティア組織に入っています。

平成25年12月議会での私の一般質問で「ボランティア名簿を整理、窓口を一本化し、

連携から融合へ向け一元化を図る」と答弁されました。その後の進展は怎么样了なっていますか。ボランティアの高齢化・固定化がすすんでいます。若い世代への参加呼びかけ、養成講座の開催などの対策をお考えですか。

**答** 中嶋町長

総務課で、ボランティアの方の把握はしていますが、すべての団体や登録者を網羅するまでには至っていません。



今村 桂子 議員

問い合わせについても、窓口となる総務課よりも、関係各課や団体窓口で直接お尋ねになるケースが多いようで、窓口の一本化は、必ずしも必要ではないと思

っています。

また、若い世代のボランティア参加は必要だと思いが、自分の生活で精一杯という方が多い社会状況にあることや、ボランティアの4原則（自発性・無償性・利他性・先駆性）により、自分自身の考えで始める活動であり、誰かに強制されたり、義務として



一番田区小地域ボランティア「ほがらか」



点訳サークル「ぶどうの会」

て行わせる活動ではないと考えます。

養成講座の開催については、福祉部門では、基本的な知識のほか専門性が問われるため、共生のまちづくり推進協議会など関係機関と連携して、独自のボランティア養成講座を27年度に実施する予定です。

組織は人なり、行政マンとしてのプロ意識を

さらなる職員研修を実施

**問** 平成17年度から22年度まで、6年間で計画期間として「須恵町行政改革集中プラン」を策定し、行政改革が進められてきました。その成果もあり、現在では、基金も蓄えられ、町の財政運営は安定してきました。計画策定後5年が経過し、新たなニーズの対応に、自治体の役割は拡大し、職員の皆さんは、日々大量な

事務処理に追われているのではないかと思います。

近頃、職員の不手際やミスが目立ちます。そこで事前の準備および外部に出す前のチェック体制の整備など、効率的な事務業務、行政組織づくりは確立されているのか町長にお聞きします。

**答** 今泉総務課長

須恵町では、2万7千人強の人口に対し、職員数は140人ほどで、近隣町に比べて少ない職員数で業務に励んでいます。



松山 力弥 議員

しかし、町行政は、営利を追求するものではないからこそ、その業務には正確性が求められます。住民サービスの

質を維持向上させていくためには、職員一人ひとりが、その能力を発揮し、組織全体として公務能力を高める必要があります。

常日頃から緊張感をもって業務に取り組み、二重・三重の審査を行い、複数の目でチェックすることは、職員として基本的な姿勢ですが、ミス

を犯したら隠さず、おやり過ぎず、お詫びしたうえ訂正し、速やかに対処することを徹底していきたく考えています。

**答** 中嶋町長

仕事にトラブルはつきものだと思います。そのトラ

ブルを解決する能力をつけるためには、教育が必要です。今後、研修会等を開催し、職員教育を実施していきたく思います。



職員の実務風景